生駒フォーラム

NO. 98
発行責任者
高柳　忠夫
（奈良県議会議員）
事務局 東新町２－10
市民オフィス内
TEL. 71-7700
FAX. 71-7800
http://www1.kcn.ne.jp./~forum/
E_mail. forum@kcn.ne.jp

地域ケアと公共交通

まちづくりテーマに新春フォーラム

生駒フォーラムはまちづくりを「あなた」そして「わたし」が考える２つの新春企画を開きました。

１月23日には「これからの地域医療と老い方」をテーマに病院・介護施設だけではカバーできない「超高齢化時代の見守りとケア」を考えました。在宅看護・介護を大阪市東成区で実践されている中村正廣医師を迎えて、地域ケアへの転換をどうするのかを、私たちの生き方・老い方も含めてのご講演でしていただきました。

「無縁社会」ではなく、自分一人にならないで自分で自分のことを決めることのできる、生き方老い方を考えさせる中村医師の講演

１月30日には「市民の移動制約者をみんなで支える」ことをテーマにした「公共交通を考える集い」を開きました。ちょうど今、市がパブリックコメントを求めている「生駒市地域公共交通総合連携計画（素案）」が策定された背景、奈良県の公共交通の現状、いくつかの自治体の「公共交通の利用を促進する条例」や「移動権を明記した生活交通条例」などの報告をうけ、公共交通に市民がどうかかわっていったらよいのかを考えました。

地域ケアへの転換、そして移動を支える公共交通は、これからの生駒のまちづくりに避けることのできない、市民参加が問われる課題です。このような企画は市民レベルでは初めての試みです。市民が当事者となり、市民と行政、市民と市民、自治会、職場、家庭など様々な場所で今後も論議を深めていきます。

生駒フォーラム編集長
高柳忠夫（奈良県議会議員）

負担の公平からも運行ルールを検討

生駒市の現在の高齢化率（全人口に占める65歳以上の方の割合）は約21％と全国平均を下回っていますが、本市は団塊の世代の方が特に多いので、もうすぐ全国平均に追いつくでしょう。しかも、本市は坂が多い土地柄ですので、今よりバスなどの公共交通の必要性が高まるのは明らかです。

一方、けいはんな線の開業により奈良交通のバスの乗客は減少しており、同社に増便をお願いするのは困難な情勢です。従って、市民の足を確保するため、市が税金を投入してでもコミュニティーバスを整備していく必要が生じてきたと考えています。

こうした理由から、２期目の市長選のマニフェストで、平成23年度から、コミュニティーバスの路線を２つ以上新設することをうたいました。現在23年度途中から実証運行という形で２路線を新設する方向で検討を進めています。

ただ、コミュニティーバスは最初から運賃だけでは赤字になることが明らかですので、税金を投入して赤字を補填するわけですが、バスの利用者が一部地域に限られることから、すべて税金で補填することには負担の公平性の観点から問題があると考えています。そこで、バスが走ることになる地元の地域にも何らかの負担をお願いできないか、また、利用者が少なくなった場合の運行についての一定のルールを検討しているところです。このようにコミュニティーバスを新設する際には、様々な利害が絡みますので、行政、バス事業者、自治会など様々な関係者の代表に集まってもらって、現在会議をしています。市民の皆様にもどうかご理解を宜しくお願いします。

生駒市長　山下　真

山下市長に生駒フォーラムの企画を話す機会があり、「次号に報告記事を書くので、市長のコメントを寄せていただけないか」の要請に、快く寄稿していただきました。

第２回（毎月第１水曜日）

生駒カメラ・i（アイ）

受講生募集 3月2日2時から

２月２日、東新町の市民オフィスを借り、第一回「生駒カメラ・i（アイ）」の教室が行われました。講師は森本康則さん。コンパクトカメラの初級者、最近一眼レフデジカメを買った中級者、そして上級者も参加しました。

次回の講習は３月２日（水）午後２時から市民オフィスで。より具体的な撮影の基本、露出やシャッタースピード等の講習が行われます。１回目欠席の人でも参加可。一言聞くだけで写真が違ってくることが実感できますよ。ぜひのぞいてみて下さい。カメラは携帯でも可。教室のみの参加費は２０００円・撮影会込みは４０００円。

人物写真撮影のコツも

初回は、サンプル写真をもとにどういう技術が使われているのか、人物の写真を撮るときのコツ（挨拶も含めて）などを教えてもらいました。

鉄でできたただのペンチを撮った写真は、そのペンチの質感や使われてきた背景も見えるようであり、初心者の私でも感動しました。

鈴鹿サーキットの８時間耐久オートバイレースを撮ったとき。湾岸戦争で戦場カメラマンが砂漠特有の砂埃のためニコンのレンズをキャノンのレンズに一斉に替えたこと（すぐにニコンも砂漠仕様のレンズを用意しました）。森本先生が持っているレンズの金額（ヒェーという値段）。冬山での命がけの撮影のエピソードなど驚きや笑いの連続でした。

緑豊か、でも坂の多い生駒
移動権の保障と市民参加で

生駒市は緑豊かですが坂道の多いまちです。生駒駅周辺の急傾斜地での住宅地、生駒駅と東生駒のどちらに行っても急な坂の多い桜ケ丘周辺、駅から住宅地まで「百段」の階段を昇り降りする萩の台住宅などなど。早い時期に開発された住宅地も山を切り拓いており、通勤通学も、買い物も坂道になります。しかも生駒市南部は傾斜地であるだけでなく、公共交通サービスがない地域です。

高山傍示線は生駒市で一か所国の補助金を入れて運行しているバス路線です。けいはんな線開通で便利になったかと思ったものの、バスは減便され利用しづらく、マイカー送迎が多くなり、バスの乗車率も低くなっています。

電気やガスは民間事業者が供給し、水道は生駒市が供給しています。これらは生活に欠かせない高い公共性を持っています。

生駒市地域公共交通総合連携計画素案づくりに参画した奈良交運労協の佃事務局長が報告しました。

同じように公共交通も、通勤、通学、通院、買い物など人が生活していく上で、なくてはならないものです。

生駒市は「市の地域公共交通に対する考え」の中で「市の役割」として「生駒市民の生活に必要な活動を支えることは、市が行うべき施策であると認識し、それに必要な公共交通政策の推進は市が積極的に役割を果たしていく」と書いています。

これまで地方自治体は地域の公共交通問題に正面から向きあってきませんでしたが、生駒市は「市が主体的となって公共交通サービスの提供を行う」と述べ、交通政策の確立に一歩踏み込んでいます。

今自家用車を使っている人も、高齢社会が進んでいくとともに自由な移動が難しくなることがはっきりしています。公共交通の役割が大切になるものの、乗車率の低いままでいいのかという問題も出てきます。生駒市では今、一路線、一乗車100円の「たけまる号」が生駒駅北の光陽台、松ヶ丘に運行しています。また今年度市内2か所で実証実験路線を追加するとしていますが、全域に広げるにはどれだけかかるのか、費用はどうか、利用はどうか、などの課題に加え、バス停から玄関口までの移動は保障されるのか、オンデマンド型やタクシー運行はどうなのかなど様々な課題が出てくることが予測されます。

この国会で、政権交代の目玉である「移動の権利」を保障した交通基本法が審議される予定です。私たち一人ひとりが健康で文化的な最低限の生活を営むために、必要な移動権を保障する画期的な法案です。

生駒市は、市民の「移動権」を保障し、生活交通政策への市民参画をもとに、住民・行政・公共交通事業者の三者が協働する仕組みをつくることを明示した交通基本条例を策定し、その条例や総合計画に基づいて、生駒市が生活交通を支える事業主体となることを目指していかなければなりません。行政が積極的な役割と責任を果たしていくことに加え、単に行政が財政支出して交通機関を支えるということではなく、住民みんなで公共交通を支え、持続可能な仕組みを共に考え、つくっていくことが大切です。

「老い」は「まちづくり」意識して

超高齢化時代の医療と介護を大阪市東成区で実践されている中村正廣医師の講演を1月23日(日) セイセイビルで開催し、40人が参加しました。中村医師63歳は10年前にクリニックの隣地に福祉マンションを建設し、いつでも往診を行うことを背景に「24時間在宅看護・介護」を実現。昨年6月には近くの商店街の空き店舗を活用し、地域の高齢者を見守る交流サロンを開設しました。

医師会に働きかけ、病院とかかりつけ医の橋渡しをする「地域連携室」の設立をし、小学校区単位で在宅看護・介護を進めようとしています。誰もが迎える超高齢社会に地域医療、介護の見守りケアなどの社会的課題だけでなく、自らの老い方についても考えました。

「参加型」の大切さ

有料老人ホームのような福祉マンションを作れないだろうかと、住みたい人や作り手、設計士など様々な人に呼びかけ集まりました。みんなで議論をしながら入居金を集め建築費を捻出し、実現された経験が語られました。先生自身の言葉通り、自分たちで自分たちの生きる場を作る「参加型」の大切さを改めて認識させられました。

現在はコミュニティネットワーク協会として「箱物」づくりから、「まちづくり」へという意識に進んできたとのことです。商店街の空き店舗を使った交流サロン（東成区の「新道パトリ」）は買物途中の休憩スペース。そこを交流の拠点として高齢者が動き回れる商店街にする。同時に高齢者の見守りもめざす地域の一体的なとりくみです。基本的なコンセプトは、「無縁社会」ではなく、自分一人にならないで自分で自分のことを決められるということ。

大阪市東成区の医師会の地域医療連携の取組みでは、病院から退院する時のかかりつけ医を選ぶ手助けを医師会が行うシステムが紹介されました。生駒市の市立病院計画が進められる中、病院と診療所などの地域医療機関の連携をどう作っていくのか。ほかの地域のとりくみをも学ぶ必要を改めて感じたところです。

生駒フォーラム編集長
高柳忠夫（奈良県議会議員）

春の自産自消キャンペーン!!
あぐり市民農園参加者を募集中

生駒フォーラムの市民農園は小平尾、お松の宮、南田原の３地域です。募集は３月末、先着順。
入会金 1000 円
１区画 7000 円
問い合わせは
市民オフィスへ
(TEL 71-7700)